

(社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0834 宇都宮市陽南2-12-19
TEL 028-684-6900 / FAX 028-684-3330
URL <http://www7.ocn.ne.jp/~tfa/>



contents

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| ① JFAサッカー行動規範11項目 | ⑨ プリンスリーグU-18関東2006に参加して |
| ② 「鹿沼自然の森総合公園サッカー場」の完成 | ⑩ 栃木翔南高等学校サッカー部のスタート |
| ③ 栃木サッカークラブ社長就任のご挨拶 | ⑪ 第5回全国シニアサッカー大会関東地区予選に参加して |
| ④ 矢口先生との思い出 | ⑫ 北山杯を優勝して |
| ⑤ 矢口栄宏先生を偲んで | ⑬ とちぎキッズプログラム |
| ⑥ 栃木県女子サッカー連盟が25周年 | ⑭ 審判委員会 指導部活動について |
| ⑦ 栃木SC Jrユース2連続優勝 / 宇市FCアルシオーネ初優勝 | ⑮ 全国高校サッカー選手権大会に参加して |
| ⑧ 第30回全日本少年サッカー大会栃木県大会 | ⑯ 審判インストラクター部より |
| | ⑰ 平成19年度の審判登録更新が始まります |



サッカーをする人、見る人、応援する人、サッカーを愛する全ての人へ!

次の、11項目を守りましょう。

- 1 どんな状況でも、最後まで全力でプレーしましょう。
- 2 あらゆる面でフェアな行動を心がけましょう。
- 3 ルールを守り、ルールの精神に従って行動しましょう。
- 4 対戦チームのプレーヤーや、レフェリーにも、友情と尊敬をもって接しましょう。
- 5 勝ったときに慎みを忘れず、負けたときも誇りある態度で受け入れましょう。
- 6 サッカーの仲間を増やすことに努めましょう。
- 7 サッカーの環境をより良いものにするように努力しましょう。
- 8 責任ある態度と行動をとりましょう。
- 9 あらゆる面で健全な経済感覚のもとに行動しましょう。
- 10 薬物乱用・差別などスポーツの健全な発展を脅かす社会悪に対して、断固として戦いましょう。
- 11 常に感謝と喜びの気持ちをもってサッカーに関わりましょう。

JFAサッカー行動規範より

～地区だより～

「鹿沼自然の森総合公園サッカー場」の
完成とこれからの協会活動

鹿沼市サッカー協会
会長 岸野 紘之

日本サッカー協会が、2002年FIFAワールドカップ記念事業として実施した、「サッカーを中心としたモデル的スポーツ環境整備事業」の認定、助成を受け、鹿沼市が建設した「鹿沼自然の森総合公園サッカー場」が完成し、去る6月10日にオープンしました。

これまで、鹿沼市にはサッカー専用のグラウンドがありませんでしたが、「鹿沼自然の森総合公園サッカー場」の完成により市サッカー協会の長年の課題が解消し、サッカー愛好者の夢もようやく実現したのです。

日本サッカー協会の助成金を得てのサッカー場整備をご提案いただき、申請等の窓口となった栃木県サッカー協会や市サッカー協会の要望に答えて整備をしていただいた鹿沼市等、関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。



▲グラウンドに併設するレストハウス

さて、鹿沼市サッカー協会ではこのサッカー場の整備決定を機に、施設の活用や管理運営面での協会の役割を始めとして、鹿沼市のサッカーの在り方や協会の進むべき方向について「鹿沼市サッカー協会アクションプラン」を策定、平成17年度から取り組んでおります。

アクションプランは、①キッズからシニア年代までの鹿沼市民へのサッカーの普及②競技力の向上、強化③指導者や審判員等の人材育成を主要事項とし、全体で11プラン40項目から成り立ちます。



アクションプランを策定して2年目、平成18年度もプランに基づく諸施策を着実に実行して行く計画で、新設サッカー場を活用してのサッカースクール開設が大きな事業となります。7月にスタートして19年3月までの9ヶ月間、子育てプランとしてのキッズサッカー教室や専門指導プランのポジション別

サッカー教室、指導者養成コースなど13コースのスクールを延べにして125回開催する予定です。



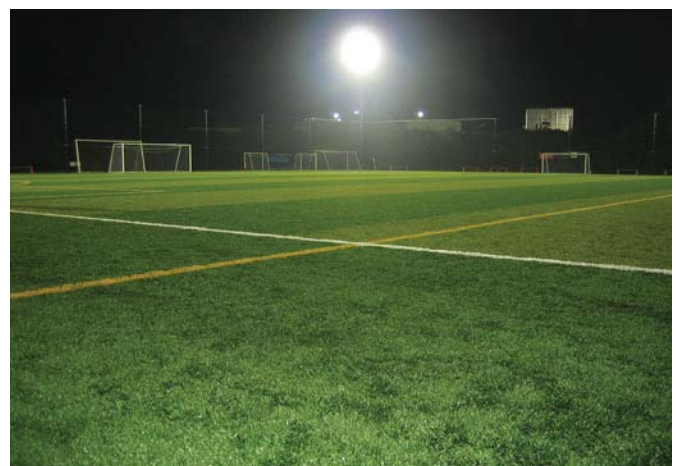
このスクールは、サッカースポーツに対してご理解をいただいている鹿沼市からの委託事業でもあり、今年度の予算に計上されていることは、費用や精神面で大きな支えとなっており、市協会を挙げ全力で取り組みます。

目指すところは、多くの鹿沼市民がサッカーボールを中心に楽しくプレーし、サッカーを身近なものにすることでサッカー人口を倍増させ「元気なまち鹿沼」を作っていくことです。



▲オープニングセレモニーで祝辞を述べる森山会長

栃木県サッカー協会ならびに関係の皆さまにはこれまでに増して、鹿沼市サッカー協会の事業と「鹿沼自然の森総合公園サッカー場」の活用についてご指導、お力添えをくださいますようお願い申し上げます。



▲真夜中でも明るい照明設備

就任のご挨拶 「栃木県の輝ける未来を創るために」

株式会社 栃木サッカークラブ
代表取締役 新井 賢太郎



常日頃、栃木県サッカー協会並びに協会を構成している全ての皆様方には大変お世話になっております。さて、私はこの度、平成18年6月15日、栃木県民の日という記念すべき日に、「株式会社栃木サッカークラブ」の社長に選任されました。どうぞ宜しくお願い致します。この日を会社の設立日にしましたのは、これから県民のチームとして、県民の皆様とともに、Jという大きな目標に向かって進みたいということからです。本来ならば、皆様方の所に直接、お伺いしてご挨拶をしないところですが、現在、関係機関の方々への各種要望、また会議などに追われており誠に申し訳ありません。ここでは、①現在の作業状況と、②今後の山積している課題およびスケジュールなどについて、皆様方にご説明をしたいと思います。今後、より一層のご理解とご協力を頂きたく、宜しくお願い申し上げます。

○現在の作業状況（6月末現在）

皆様ご存じのように、Jリーグに入会するためには、まず準加盟の申請を7月10日までにして、8月に開催されますJリーグ理事会の審査を受け、この審査にパスをし、「Jリーグ準加盟」に認定されることが大前提です。準加盟の認定を受けるための申請書類としては、法人に関する項目、ホームスタジアムに関する項目、

ホームタウンに関する項目、そして現在のチーム活動状況など多数あり、これらの準備を、時間との戦いの中で行っているところです。またこれと並行して、株式会社栃木サッカークラブとしての事務所開設の準備も行っております。

○今後の課題

これまでは法人の立ち上げに関することで忙殺されていましたが、これからは、まず来年度のJFLで2位以内の成績を上げるためのチーム作りについての検討をしなければなりません。そのためには当然予算が関係してきますので、従来より大幅なスポンサー増、後援会員増の方策について検討をしていきます。しかし最も重要なことは入場者数の大幅な増加が全てに関係してきますので、どうか栃木県サッカー協会を構成している全ての皆様、ご家族、お友達を誘ってスタジアムに足を運んで応援して下さい。また長い間、栃木SCとして応援をして頂きましたが、更に栃木県民全ての方々に「おらがチーム」として愛され、誇りを持って応援して頂くために、チーム名も公募などにより変更していきます。まだまだ課題だらけですが、一つ一つ課題をクリアしながら前進していきたいと思っております。

○より一層のご声援、ご協力を

今、私達サッカーを愛する、スポーツを愛する全ての方々が県民総運動として一丸となって取り組まないと、今後、栃木県にJリーグは出来なと思います。困難な仕事ですが、将来の子どもたちのためにも、私は全身全霊を傾けてまいります。どうか、栃木県サッカー協会の皆様、今後ともより一層のご声援、ご協力をお願い申し上げます。

矢口先生を偲んで

サッカー協会常務理事
奥澤 浩

2005年12月31日、県サッカー協会事務局から訃報が届いた。矢口栄宏氏が逝去されたとのこと。76歳の若さだったので、始めは一寸信じられなかった。

私が初めて矢口先生を知ったのは、姿川中学校1年生でサッカー部に入った、昭和35年であった。3年生になった昭和37年6月、姿川中学校は関東大会県予選で決勝に進出した。矢口監督率いる星が丘中学校と対戦したが、歯が立たなかった。（この決勝戦はなぜか、宇都宮高校グラウンドで行われた。）あれからもう45年が経過していた。

去年V3を達成した、成年男子の国体選抜チーム。なかなか陽が当たらない、苦しい時代があった。昭和49年の茨城国体を目指したチーム。日立栃木の武市宏司監督、吉澤茂弘、矢口栄宏の両コーチ。私は帯同審判員として、チームと一緒に行動した。この頃は日立栃木、旭光学、揚茜クラブが全盛で、そこに藤和不動産の若手を補強した布陣であった。

試合や練習は、足利渡良瀬、今市青少年、益子旭光学、那須ハイランド、県総合運動公園などで行った。予算が少なかったので、合宿は県総合グラウンドの宿舎や吉澤先生の実家「富士見旅館」、時には旭光学の研修所に泊めてもらった。矢口先生はいつも腰に、トレードマークの「手拭い」をぶら下げていた。試合後の反省会では、最後に「次また頑張ればいいんだ」と必ず結んだ。

昭和48～50年頃、県中学校大会の決勝戦は、ほとんど私が笛を吹いていた。中学校の大会は、学校体育のためウィークデー開催である。その頃私は、まだ免許も車もなかった。矢口先生は試合の2時間前に、会社（アイワ）の玄関前まで迎えに来てくれた。上手くコントロール出来ない試合もあったが、それでも私の味方をしてくれた。

昭和51・52年、私は1級審判の昇格試験を受けた。51年保留、52年不合格となり、審判はもう辞めようと思っていた。ヤル気も起ころず、しばらく空白があった。正月に下野杯県下中学生大会1回戦が、宮の原中学校で行われた。何となく見に行ったのだが、前半終了の時矢口先生が私に「人がいないから、次の試合で笛を吹け」とのこと。あと30分位しかないのに。私は急いで、自転車で自宅に帰った。本当に久しぶりの審判用具をかき集めて、宮の原中学校に戻った。何とか試合には間に合った。

矢口先生は、私が不合格になったのは、既に知っていた。試合後「あんたの気持は良く分かる。しかし、本県の現状を見たら知っての通り、まだまだ審判員が不足している。俺はあんたを1級だと思っている。自称1級審判員でも良いではないか。もう少しだけ、本県のために頑張ってくれ。」と言われた。約40年間も審判をやって来たが、辞めたいと思ったのは、不

格になったこの時一度だけだった。この事がなかったら、今の私はなかったかも知れない。感謝している。

晩年、宇都宮社会人ナイター大会の試合では、矢口先生の「指定席」があった。車の中から金網越しに観戦して、終われば何も言わずに帰られた。私や他の役員に対して、会うと必ず「ごくろうさん」と一言、声を掛けてくれた。毎回毎回、欠かさずに。

私は一度だけ、矢口先生に叱られた事があった。高校卒業後、地元の社会人チーム「姿川FC」でプレーしていた。当時（今でも？）私は少々生意気であった。試合中に判定に文句をつけたら、すかさず矢口主審は「黙ってやれ！」と、大声で私を一喝した。あの顔、あのダミ声に震え上がった。ちなみに、姿川FCは40年前、本県で初めて「FC」という名称を使用した。サッカーが何で「フットボール」なんだと、ずい分言われた時代だった。

昨年の初夏、社会人連盟の「オフィシャル・ハンドブック」を自宅にお届けしたのが、最後となってしまった。長い間、大変お世話になり、ありがとうございました。合掌。

矢口先生との思い出

揚茜クラブ
監督 渡辺 義明



矢口栄宏先生と言って一番頭に浮かぶ事と云ったら、これほどまでにサッカーというものを愛した人は、先生以上の人が思い当たらないということです。赴任先の中学で数多くの選手を育成し、社会人サッカー、女子サッカー、あ

らゆる分野で、骨身を惜しまずにサッカーのすばらしさを身をもって伝えた人は今でも、そしてこれから先も出てこないと思います。

さて、私と矢口先生との出会いは、私が星が丘中学校の時でした。当時、星が丘中のサッカー部は県下トップクラスでした。空き時間、特に昼休みになると皆がこぞってサッカーを楽しむ学校でした。私もそんな仲間刺激され、いつしかサッカー部に入部していました。誰に強制されるでもなく、やればやるほど熱中できるスポーツでした。そんな中で、矢口先生は、一人一人の良さを充分に引き出すことの上手な先生で、常に私達にやる気を起こさせてくれました。

いつも練習では、矢口先生自身もゲームに入り、素晴らしいテクニックを見せて、私達を驚かせました。また、今思うと、普段の生活の中で常にサッカーに興味を示すことを教えてくれていたような気がします。たとえば、廊下を歩くとき、前から来る人にフェイントを入れて歩けというように、ちょっとしたアイデアを私達に教えてくれました。

ある時は、8ミリでブラジルの試合を見せてくれ、

アウトやインフロントにかけてボールを曲げるパスやシュートを見られた事は、中学生の私にとってはまさに感動的なものでした。その時代のサッカーは、「キック・アンド・ラッシュ」が主流で、相手を潰すことがなにより一番の時代でしたから、そういう中で本来のサッカーのおもしろさや、あらゆるテクニックを選手それぞれの能力に応じて引き出してくれたのは先生でした。

今、思うたびに残念なことは、このようにサッカーにかける先生の情熱を、矢口先生を知る人なら誰でも解っているはずなのに、その意思を継いで、栃木県のサッカーをかけひきなしに、真の愛情を持って指導する人達が少ないような気がします。幸いな事に現在、栃木SCがJ2に上がるだけの実力をつけつつあります。そんな時こそ、先生の情熱を継いで、私達が手助けをしてあげる事が栃木県のサッカーが盛り上がる近道になると思います。それが、残された私達にとってやるべき事であり、先生もこの空のどこかで「がんばれ！」と応援してくれている事だと思います。

矢口栄宏先生を偲んで

サッカー協会理事
手塚 操

矢口栄宏先生が昨年暮れに御逝去されました。本県サッカー界にとって偉大な方を失い大変残念なことであります。

ここに先生のサッカーに対する情熱を思いのままに書かせていただきました。

○矢口先生の功績

矢口先生は、サッカーの選手として、現在の宇都宮高等学校、宇都宮大学、栃木サッカークラブ時代には、チームの中心として素晴らしい活躍をされました。

また長年、中学校教員と栃木サッカークラブの監督として、県内外で多くの功績を残されました。栃木サッカークラブの監督時代には国体出場、中学校の監督時代には赴任されました各学校で強力なチームを育成され、優勝に導かれております。

そして、栃木県中学校体育連盟サッカー競技委員長(10年間)、宇都宮サッカー協会、栃木県サッカー協会の役員として長年本県サッカーの発展に尽力されました。県サッカー協会では、中学校連盟の代表として、更に少年連盟、高等学校連盟、社会人連盟、女子連盟にも惜しみない指導をしていただきました。

協会役員を退いた後も各種大会を観戦され、我々は大変心強かったです。先生の本県サッカーへの貢献はどんなに大きかったかわかりません。

それらの功績が認められ、平成3年には、栃木県民スポーツ功労賞を受賞されました。県内サッカー関係者にとっては大変名誉なことでありました。

○矢口先生のお人柄

矢口先生は、サッカーを愛する人は誰でも仲間に入れていただき、面倒をみてくれました。先生のサッカーに対する情熱とお人柄に引かれ、多くの人がついて行きました。県内には、先生から指導を受けて、サッカーの指導者として活躍されている方が大勢いらっしゃいます。

サッカー関係者は、先生からサッカーの用事を頼まれると学校や会社の仕事がどんなに忙しくても「矢口先生から頼まれたのだから仕方がないだろう」と言って皆さんが協力をしてくれました。

また、先生は、常に腰に手拭いをさげ、大きな荷物を抱えサッカー場に来られた姿は今となって懐かしい思い出であります。

○矢口先生との出会い

私事になりますが、昭和30年代に上河内中学校に赴任をしたとき、宇都宮市立星が丘中学校で監督をされておりました。当時、星が丘中学校は、県内のすべての大会を制覇されました。私は、上河内中学校でサッカー部を新設し、「打倒星が丘中、打倒矢口先生」に燃えて毎日練習に励みましたが、なかなか勝てませんでした。

それ以来、先生にはサッカー指導はもとより、中学校教師として生徒指導の在り方、そして趣味の囲碁の手ほどきもしていただきました。しかし、残念ながらどれも先生の力には及びませんでした。

○まとめ

先生は、本県チームが関東大会、全国大会等に出場するときには必ず「他県には負けるな」と声をかけ、励ましてくれました。それだけに先生は本県サッカーへの思いが強かったものと思います。

先生が築き上げられた栃木県サッカー協会も現在は大変大きな組織になりました。サッカー競技人口も増え、皆さんがサッカーに燃えております。どうぞこれからも栃木のサッカーを見守っていただきたいと思っております。矢口先生のご冥福を心からお祈りいたします。



第13回関東四十雀サッカー大会にて
(前列右から二人目が矢口氏)

栃木県女子サッカー連盟が25周年

県内で最初に開催された女子サッカー大会は、1979年7月の宇都宮女子ミニサッカー大会でした。その2年後、1981年に栃木県女子サッカー連盟が発足、今年で創立25周年を迎えました。

連盟では3月18日に宇都宮市内のホテルで記念講演、記念式典、祝賀会を開き、四半世紀に及ぶ活動を振り返ると同時に、さらなる連盟の発展に向け気持ちを新たにしました。

記念講演では、元日本女子代表の高倉麻子氏と手塚貴子氏に、おふた方の歩んだ「サッカー人生」を語っていただきました。また記念式典では、これまで連盟を内外から支えていただいた旧役員やチーム関係者の方々に功労賞を贈呈し、連盟のいしづえを築いた功績をたたえました。

また並行して連盟のエンブレム公募も実施。厳正なる審査の結果、真岡市の斉藤舞さんの作品が大賞に選ばれました。

■特別講演■

元日本代表、高倉、手塚両氏による、とても楽しいトークショー形式の講演会でした。今回参加させていただいた生徒たちは、両氏の現役時代のビデオ映像をひと目見て、両氏の偉大さが理解できたようで、食い入るような目つきで講演を聞いていました。

生徒たちが最も感動したのは、高倉氏が中学時代に女子チームを求めて福島から東京へ通って練習したと



▲高倉氏(中央右)と手塚氏(同左)を囲んで

いう苦労話や、手塚氏がボールリフティングの全国大会優勝をきっかけに読売ベレーザに誘われたというサクセスストーリーだったようです。両氏のそんな姿に強烈にあこがれたのでしょう。翌日の練習でほとんどの生徒がいつもより早くグラウンドに来て、5分間に1200回という手塚氏の「高速リフティング」にチャレンジしていました。今後、生徒たちにより意味でのさまざまな変化が現れるのではないかと期待しています。

大変有意義な講演会をありがとうございました。
(宇都宮中央女子高サッカー部監督 秋山収)

■記念式典■

功労賞の表彰者を代表しまして武田義雄さんに連盟創設期の思い出話をおうかがいしました。

1970年代の県内女子サッカー人口は極端に少なく、当時、栃木県サッカー協会から「ミニサッカーから女子の普及をなささい」という話をもらい、陽南中教諭だった竹之本進篤夫先生らと女子サッカーの普及に乗り出しました。

当時、県内に女子チームなどはなく、宇都宮市の緑が丘小を拠点にチームを立ち上げました。練習なども積極的に行い、試合で男子チームを破ったこともあり。その数年後に連盟発足の話が持ち上がり、設立に携わらせていただきました。

役員の手書きはありませんでしたが、矢口榮宏先生や竹之本進先生らと「全国に通用するチームを」と選手育成に励みました。また国体チームの編成と強化などは、矢口先生や歴代理事長の皆さんたちが本当に苦労されたことを覚えています。

今は女子サッカーからも離れましたが、県内のレベルはものすごく上がったことは承知しています。中学世代の女子選手をどう確保、育成していくかが課題となっていることも聞いています。連盟には「選手を育てること」を一番大切に考えていただき、さらなる発展を期待しています。



■エンブレム公募■

25周年を記念しエンブレムの公募も行いました。県内から約20点の作品が集まり、その中で真岡市の斉藤さんの作品が大賞に選ばれました。斉藤さんの作品は、「栃木県の色・緑」と「勝利と発展」を意味する黄色を基調



に、中央にサッカーボールと県の花・ヤシオツツジが描かれています。今後、連盟のさまざまな活動の中でこのエンブレムを使用していく予定です。また準大賞には那須塩原市の相馬末季さんの作品が選ばれ、お二人には連盟から賞状と副賞が贈られました。

●栃木SC Jrユース 2年連続優勝

第12回関東クラブジュニアユースサッカー選手権大会 兼
第21回日本クラブユース選手権U-15大会栃木県大会

- 開催期間 4月16日～5月20日
- 会場 石井緑地/柳田緑地/平出サッカー場/JOYグラウンド
- 試合結果

準決勝	栃木SC	(1-0)	アルシオーネ
準決勝	チェルト	(1-1)	足利
		PK 3-1	
3位決定戦	アルシオーネ	(1-0)	足利
決勝	栃木SC	(4-1)	チェルト

優勝 栃木SC Jrユース (関東大会出場)



準優勝 宇都宮チェルトFC U-15



第3位 今市FCアルシオーネ



第4位 足利両毛ユナイテッドFC



【総評】

総合力のある栃木SCが優勝。チームの戦い方も昨年よりも統一されており、決勝戦においては選手層の厚さと決定力の「差」が出た感じでした。準優勝のチェルトは精神的に逞しく、最後まで諦めず戦う姿勢は賞賛に値する物であり、3位のアルシオーネは昨年の質を落とさず、スピーディーなサッカーで実力を証明し、足利はなかなかリズムに乗れず4位に甘んじました。他にはJEFが力強さと判断のスピードが著しく向上し、佐野は丁寧なサッカーが将来性を感じさせていました。

全体的に昨年と比較するとやや劣る感じがします。コンスタントに力が発揮出来るチームや選手が少ないように感じられ、それには今後、クラブチーム全体の魅力づくりやグラウンド環境、又、若手指導者の育成などを行い、関東の他県に追いつく努力が不可欠だと感じます。

**クラブユース連盟
今後の大会日程**



●今市FCアルシオーネ 初優勝

第4回栃木県クラブユース連盟U-13交流試合

- 開催期間 6月4日/5日
- 会場 石井緑地
- 試合結果

準決勝	アルシオーネ	(1-0)	リナート
準決勝	ヴェルディ	(3-0)	佐野
3位決定戦	リナート	(2-1)	佐野
決勝	アルシオーネ	(0-0)	ヴェルディ
		延V 1-0	

優勝 今市FCアルシオーネ



準優勝 ヴェルディSS小山



第3位 那須リナートSC



第4位 FC佐野 Jrユース



【総評】

決勝戦はどちらが優勝してもおかしくない白熱したゲーム展開でした。そのゲームに決着をつけたのは延長に入ってから1本の直接フリーキック、それがアルシオーネに初優勝をもたらしました。

4月までは小学生だったとは思えないほどの、スピードや身体能力、細かいテクニックを駆使したドリブルや正確なスルーパスなど、優れた選手が各チームに多く見受けられ今後の成長が大いに楽しみです。

- 第8回栃木県クラブユースサッカー選手権大会(坂田杯)兼 高門宮杯
- 第18回全日本ユースサッカー選手権(U-15)大会・栃木県予選
(一次予選 7月8日～ 2次予選 8月19日～ 決勝トーナメント 9月23日～)
- 第4回栃木県クラブユース連盟(U-15)ラストゴール杯 (11月11日/12日予定)
- 第4回栃木県クラブユース連盟(U-14)新人大会 (10月14日～12月9日予定)

FAIR PLAY PLEASE



フェアプレイを心がけましょう

第30回全日本少年サッカー大会栃木県大会



平成18年6月3日・4日・10日・11日の日程で、各地区予選を突破した64チームが熱戦を繰り広げた。

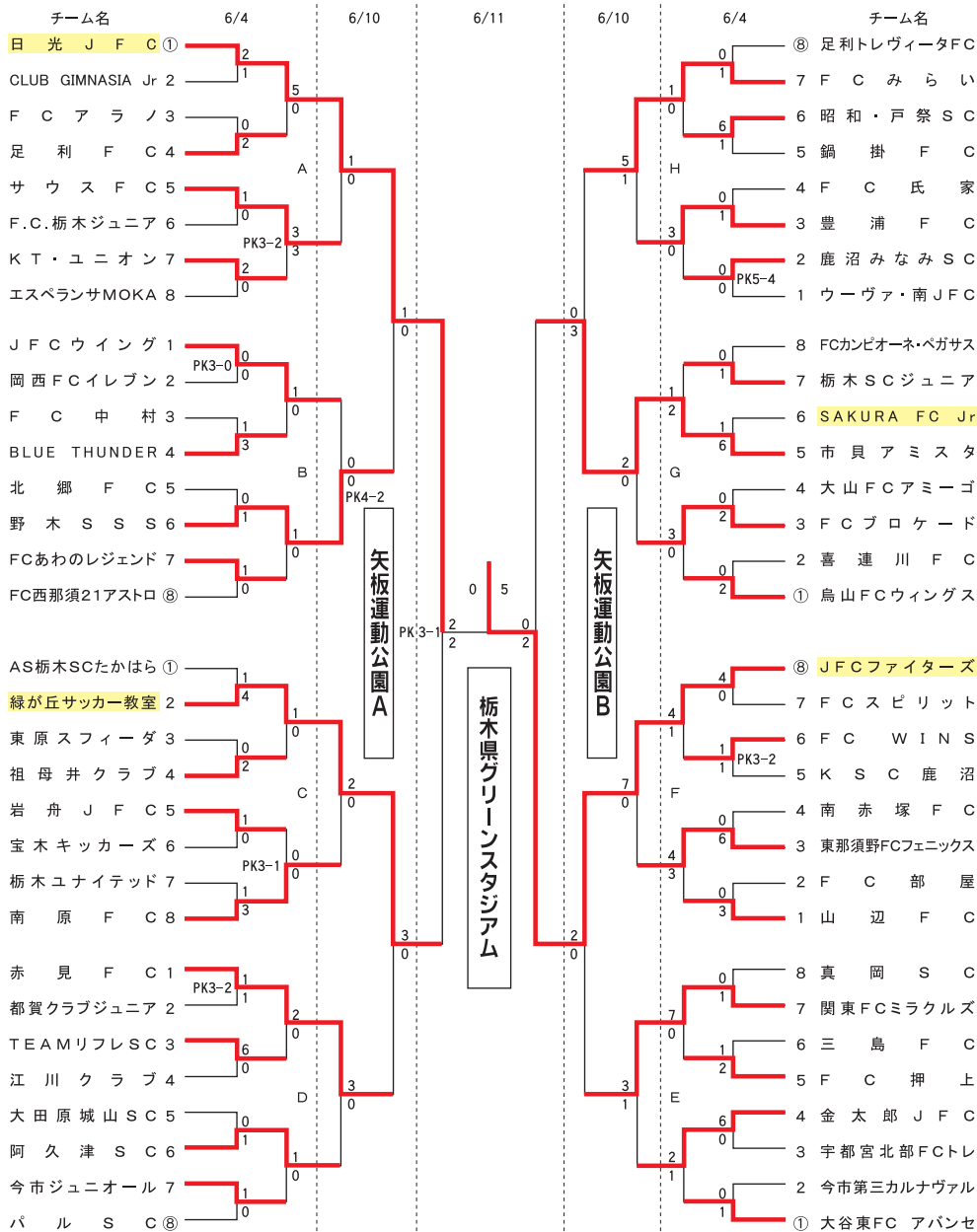
本年度は、第30回の記念大会として、開会式後に本連盟技術委員会を中心に、リフティング指導、GKクリニック、リフティング大会などの「ボールへの集い」を開催し、1300名の選手が参加した。

大会は、1回戦から1点差、延長、PK戦と接戦が続き、地区1位のシードチームが姿を消すなど、波乱もあった。

決勝は、芳賀地区のJFCファイターズと上都賀地区の日光JFCの対戦となった。終始優位に試合を進めたJFCファイターズが5-0と快勝し、2年連続4度目の全国大会への切符を手にした。また、準優勝の日光JFC、3位の緑が丘サッカー教室、SAKURA FC Jrは、関東大会への出場権を手にした。

全日本少年サッカー大会は、8月5日～13日に、Jヴィレッジ、西が丘サッカー場にて開催される。また、関東大会は、8月11日～13日に甲府市で開催される。栃木県代表として、活躍してくれることを期待したい。

第30回全日本少年サッカー大会栃木県大会 試合結果一覧



<大会成績>



優勝 JFCファイターズ



準優勝 日光JFC

3位

- フェアプレー賞
JFCファイターズ
- 敢闘賞
日光JFC
- 努力賞
緑が丘サッカー教室
- グッドマナー賞
SAKURA FC Jr

※栃木県少年サッカー連盟HPに詳細を掲載中

プリンスリーグU-18関東2006に参戦して

栃木県立小山南高等学校サッカー部
監督 川上栄二

この原稿が“サッカー栃木”に載る頃の成績はどうなっているであろうか？また、本校チームの闘いぶりに対する評価はどうなっているだろうか？また、そこから抽出できる課題を建設的に還元できる準備ができているであろうか？楽しみである。

JFAプリンスU-18関東2006に向けて

目 標

- 1 栃木県を代表するチームとして、誇りを持ち、適切な言動が取れるようになる。
- 2 チームプレーに徹する意思の統一（勝利のために）
- 3 どんな相手にも闘い抜くメンタリティーと克己心の獲得
- 4 最高目標 全日本ユース選手権出場
中間目標 グループリーグ5位以内
最低目標 リーグ残留

さて、ここでは簡単に今年度の本校のプリンスリーグに向けてのチームコンセプトや序盤戦のゲームコンセプトについて、大会の準備期に本校選手対象に行ったプレゼン資料を元に述べていきたいと思います。

大会以前にはじめに考えたことは、本校がこのリーグ戦で闘っていけるかである。栃木の代表として誇りと自信を持ち、強豪相手にどのように戦っていくかである。（目標やチームコンセプト、キーファクターについては図を参照のこと。）

JFAプリンスU-18関東2006に向けて

チーム作りに関するキーファクター

- ・全国レベルのスキル（渾身の技）
- ・判断（When, Where, Who, What, How）
- ・突破（FWの動きの質、個の突破力）
- ・MFの攻守におけるバランスと運動量
- ・3ライン（組織化された守備）
- ・攻守におけるGKとDFの連携
- ・カウンターアタック（コレクティブカウンター）
- ・リスタート
- ・ハードワーク
- ・4つのモメント
- ・グッドコミュニケーション
- ・インサイト（洞察力、予測ある行動力）
- ・メンタルコントロール（モチベーションコントロール）etc.

緒戦のマリノス戦では、大人と子どもの差を感じたゲームであった。しかし反面マリノスの選手も同じ高校生であると感じられたゲームでもあった。敗戦ではあるが、何か清々しく、今後やっていけるのではないかという不思議な期待感が選手・スタッフ共々生まれてきたのも事実である。ここで選手に伝えたことは、「私たちの努力は間違っていない」ということと、

「マリノスを基準としたトレーニングを積み重ねること」であった。また、3バックでスタートしたが、不運にもCBが緒戦で負傷し、次節出場ができないことが確実であったので、本校の総合的な力量を考え、迷い無く4バックに変更できたのも今から考えれば、奏功したといえる。

JFAプリンスU-18関東2006に向けて

チームコンセプト

- ・サッカーの本質を失わない
ゴールを守る、ボールを奪う、ゴールを奪う!!
- ・ベーシックシステム 3-5-2
オプション→
- ・プレッシャースタイル（リトリートとの使い分け）
- ・コンパクトフィールド
- ・堅実な守備からのコレクティブカウンター
- ・ポジションスタイルをベースにしたサイドアタック
攻撃の優先順位を失わない（バイタル攻略）
- ・サイドチェンジ
- ・運動量（ムービングフットボール）
- ・戦う姿勢（コンタクトスキル、最後まで諦めない）

また、小手先のテクニックや迷いあるアプローチでは通用しないことを肌で感じることでできた試合が2節の八千代戦であった。雨中のスリッピーなピッチコンディションの中、確実な基本技術とボディバランス、闘争心など改めて力の無さを体感することができた。

この2試合でゲームコンセプトを修正した。プレススタイルからダイレクトプレーの意識をさらに高く持つことへ。闇雲にプレスをかけるのではなく、1stDFの決定とダイナミックなチェイシング、チャレンジ&カバーの徹底。無駄なパスを減らすためには？効果的な仕掛けをするには？がトレーニングテーマとなった。無論行き着く先は基本をより高めること、サッカーの本質をさらに追及することだが。



指導者個人としては、あらためてM-T-Mメソッドの重要性を実感している。試合分析、課題抽出、スカウティング、コンディショニング、学校行事や選手のモチベーション。ありとあらゆることを勘案したトレーニングプランと選手への落とし込み。1試合ごとに一喜一憂している暇は無い。ただ、自分たちが設定した目標を達成するために理由も無く突き進み続けることだけである。最後まで諦めずに貪欲にやるだけである。

最後に本校選手が自ら掲げたチーム・ミッション・ステートメントを紹介して、この稿を閉じたいと思う。これは「勝利への3束」と呼ばれ、選手たちが自分たちへの約束として掲げ、日々声に上げてアファIRMーション（肯定的な宣言）しているものである。自己宣言し、実行すること（有言実行）が小山南高校サッカー部の基本である。

小山南高校サッカー部勝利への3束

- 一、常に目標から目を離さないチーム
- 一、勝利に貪欲なチーム
- 一、最後まで絶対に諦めないチーム

付記 会場まで足を運ばれていただいている多くの方々に選手・スタッフ一同を代表いたしまして感謝申し上げます。



2006 栃木Study-League 参加チーム

A1リーグ

佐野日大高校 小山南高校 真岡高校 宇都宮清陵高校 文星芸大附属高校 今市工業高校 宇都宮東高校 黒磯高校 白鷗大足利高校 矢板中央高校

A2リーグ①

作新学院高校 宇都宮工業高校 宇都宮高校 國學院栃木高校 佐野松陽高校 宇短大附属高校 小山西高校

A2リーグ②

宇都宮南高校 宇都宮白楊高校 大田原高校 足利工大附属高校 那須清峰高校 矢板高校 矢板東高校

Bリーグ

真岡工業高校 栃木農業高校 高根沢高校 黒羽高校 足利工業高校 栃木SCユース

2006 栃木県ユースサッカー U-17リーグ 参加チーム

1部リーグ

小山南高校 真岡高校 佐野日大高校 矢板中央高校 宇都宮清陵高校 宇都宮白楊高校 國學院栃木高校 鹿沼高校

目指すはリーグ制覇、そしてプリンスリーグU-18 関東2007出場!

2部リーグ

(Aグループ)

栃木工業高校 白鷗大足利高校 文星芸大附属高校 小山高校 青藍泰斗高校 宇短大附属高校 那須清峰高校

(Bグループ)

作新学院高校 宇都宮南高校 烏山高校 栃木SCユース 益子芳星高校 大田原高校

(Cグループ)

宇都宮工業高校 足利高校 壬生高校 氏家高校 宇都宮東高校 石橋高校

(Dグループ)

宇都宮高校 宇都宮北高校 小山西高校 黒磯高校 鹿沼東高校 今市工業高校

1部リーグ昇格を目指して対戦します!

栃木翔南高等学校サッカー部のスタートにあたり

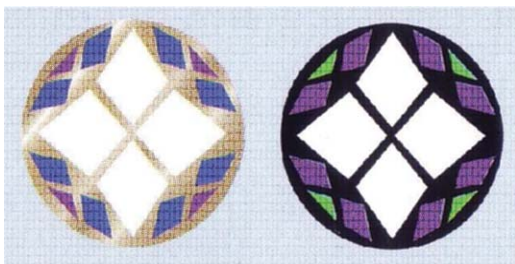
栃木翔南高等学校サッカー部顧問
落合敬行

平成18年4月10日、栃木南高校と藤岡高校が合併する形で県立栃木翔南高校の開校式が挙行政され、同時に栃木南高校の1年生の募集を停止し、栃木翔南高校の1年生が入学を許可されました。栃木南高校22年、藤岡高校31年の歴史に一区切りをつけ栃木翔南高校がスタートしたわけです。栃木翔南高校の校歌は全くの新設で、内容は両校の状況が偲ばれるように配慮がなされ、校章についても栃木南高校の校章を基調に藤岡高校の希望色が取り入れられたものであると聞いております。

両校サッカー部とも、それぞれの歴史があり短文ではとても紹介しきれるものではありませんが、たまたま筆者は栃木南高校発足以来10年間サッカー部の指導をさせていただくことができ、さらに今年度から栃木翔南高校のサッカー部の顧問となり、23年間の隔たりはありますが、新設2校のサッカー部の発足に関わることができ大変ありがたく思っております。それでは、感傷に流されることなく簡潔に短い歴史を辿ってみたいと思います。

栃木南高校発足当時、現在南北2棟ある建物は、南側教室棟のみで職員の執務する職員室・事務室・校長室等は、全て現在の3年生のHRが充てられていました。部活動は、当時全部で体育系・文化系併せて10部程度しかなく、サッカー部もその時点ではまだ存在していませんでした。一方、グラウンドと言えば、野球場はダイヤモンドを中心に何度か土壌の入れ替えを含み手を入れていた様ですが、サッカーグラウンドはトンポでならしてもならしても、こぶし大の礫が次々に出現する有様でした。栃木南高校開校当時、サッカーグラウンドはラグビーグラウンドとしてつくられ、指導者も花園の常連監督のK先生が異動されていて、先生を慕う生徒も集まり、将来の拠点校となるべく準備に余念のない状況でした。

そのような中で栃木南高校は開校し、4月5日が経過していきました。丁度1学期の中間テストの頃、サッカー部としての部は存在しない中で授業のための新式のアルミニウムのゴールが1組グラウンドに置かれていました。それを取り巻くように、昼休み、放課後等、三々五々生徒がボールを蹴り始め、自然発生的に30~40人の集団が部の開設を求め、デモンストレーションをするまでになってきました。その様子を見守りつつ、生徒の意気を感じたK先生は、快くグラウンドの半分を譲って下さり、筆者が初代顧問として栃木南高校サッカー部が発足したのでした。以後部員たちの精進・努力は（手前みそながら）目を見張るものがあり、部の発足~以後10年間において全国高校サッカー選手権大会栃木大会2次予選に8回出場し、そのうち4度準決勝に進出。いずれも延長戦にて惜敗するという結果を残せるまでになっていきました。しかし、栄枯盛衰は世の習いのたとえ通り発足10数年後から22年までの期間は衰退の一途でした。幸い、今年度から栃木翔南高校の開校で、入学してくる生徒の考えにも変化の兆しがみられ、新たな一步を踏み出すべく雌伏しているというのが現状であります。初代顧問が異動により舞い戻ったことも、何かの縁でしょうか。ともあれ、今後ともサッカー関係者の諸先輩、同僚の皆様のご厚意に甘え、新設校としてスタートいたします。どうぞよろしくごお願い致します。



栃木翔南高校の校章 栃木南高校の校章

第5回全国シニア（50歳以上） サッカー大会関東地区予選会に参加して

下都賀シニア
監督 高橋節夫



私たちのチームは約10年前に下都賀四十雀として発足し、メンバーの殆どが50歳になりました。

発足当時は沖縄等の全国スポーツ祭に参加したりしてまいりました。ここ数年若返りが図れず、

伸び悩んでおりましたが、今回、五十雀の大会に初参加しました。

目標は全国の切符を手にする事しか考えておりませんでした。しかし、五十雀のメンバーによる練習をきちんとしていなかった為か初戦敗退という悔いの残る結果となりました。

相手チームが関東予戦を勝ち抜き全国の切符を手にしてあります。非常に悔しい。来年もチャレンジし、必ず全国の切符を手にする事を誓い、精進していきます。

会場：神奈川県平塚馬入ふれあい公園サッカー場
対戦結果：山梨代表 1-0

日本スポーツマスターズ2006 サッカー競技関東地区予選会に参加して

下都賀シニア
監督 高橋節夫

大会前になって、メンバーが集まらず、他の公式戦でもチームの雰囲気盛り上がりこない状況でした。

急遽、練習試合等を組んで盛り上げを図ろうとしましたが、残念なことに初戦敗退という結果に終わってしまいました。またも、相手チームが関東予戦を勝ち抜き全国の切符を手にしてあります。

これからは若返りを図り、来年こそ全国の切符を手にした。

会場：神奈川県横浜市保土ヶ谷公園サッカー場
対戦結果：埼玉代表(浦和シニア) 2-0



選抜交流会に参加して

落合SC2002日光
柏木友宏

選抜交流会というものを知ったのはチームの監督から名前を上げられた時だった。最初は『えっ、何それ？』と不安に感じた。しかし内容を良く聞いているうちに気持ちが高ぶり早くその日が来ないかと待ちどろしかった。当日少し遅れ気味に行ってしまった私はそのせいか緊張もし、焦りもあった。今まで違うチーム同士で戦ってきた相手が今日は同じチームの仲間。ミスをしたらどうしようとか、チームに溶け込めるのか色々考えたら余計緊張してきた。しかし中学時代の仲間や高校の仲間もいたせいか、私が思っている以上にアップから楽しく和やかに出来た。試合が始まり自分のチームとは違うポジションだったがスタメン。連携や流れが気になったがチーム全員で声を出しても今日始めて集まったチームとは思えない様な動きだった。対戦相手のチームも楽しそうにやっていたとても良かったと思う。

今日の選抜交流会に出場してみてとても良い経験になったし、色々な選手との交流も深まった。これで終わりかと思うと本当にもったいないと思えるぐらいとても良いチームだった。参加出来た事にチームの監督と周りの方々に感謝したい。またこのような機会に参加する事が出来ればもっと他のチームの人と交流を深めたいと思います。また参加できるようにリーグでも頑張りたいと思う。

北関東3県社会人サッカー連盟交流会

社会人サッカー連盟
理事 土屋 誠

毎年恒例となった北関東3県社会人サッカー連盟交流会が茨城県カシマスタジアムで6月24日に行われた。午前中は各県の状況報告、各委員会に分かれての意見交換会。意見交換会は予定時刻を過ぎ昼食時間を削るまで意見を交わしあった。午後はピッチに移動し、役員選抜による交流戦。

第1試合は茨城選抜との対戦。カシマスタジアムの雰囲気呑まれ浮き足立つ栃木選抜。それを横目に初優勝を狙う茨城選抜が気合いをみせ2点を先取、なんとか1点を返したものの、更に1点追加され1-3の完敗。続いて行われた茨城選抜VS群馬選抜は引き分

け、優勝の行方は最終戦に。優勝の可能性がなくなり、最高のピッチで最高のプレーをしようと意気込む栃木選抜。前半は1-0で折り返し、後半、連戦の疲れの見える群馬選抜に怒涛の攻撃を仕掛ける。更に秘密兵器のY選手を投入し、攻撃的なフォーメーションに。結果5-1の快勝、茨城選抜の初優勝に花を添える形となった。

夜には懇親会の会場であるホテルに移動し、見事、地元で初優勝を遂げた茨城県役員を中心に盛り上がり幕を閉じた。



栃木県選抜チーム

北山杯を優勝して

宇都宮FC
監督 桜井靖志

他の指導経験を経て、私は監督という立場で古巣の宇都宮FCに迎えられ、「1部リーグV2」「北山杯優勝」「最優秀監督」という名誉を頂きました。これは、監督である私の力よりも、周囲のサポートと、何より、選手たちの日々の努力の賜物でしょう。ただひとつだけ私の心掛けた事があります。それは選手達の立場で考えるという事。これは指導経験から生まれた私の財産であり、私が選手達の背を叩く基軸となりました。

想うと数々の失敗や挫折も経験しました。

多くの仲間と家族により、暖かく支えられ、数々の経験をさせて頂いております。

我々のこのような直向な活動が、形として残せることを感謝し、我が子を始め、皆様の家族、そして希望ある子供たちに「伝心」出来る事を心から願っております。



(財)日本サッカー協会（JFA）では、平成14年度より多くの子供達に身体を動かすことの爽快さやスポーツの素晴らしさを体感してもらいながら、サッカーの普及・浸透、更には人材の育成を図るため、普及・育成に関する活動を積極的に展開し、日本独自の普及・育成体制を整備し、それを「JFAキッズプログラム」として推進しています。「JFAキッズプログラム」を積極的に展開することは、単にサッカーの普及・浸透にとどまらず、少子化、核家族化、都市化、高度情報化など、キッズを取り巻く社会環境の要請に適切に対応して、「親と子が共に育つ」場の提供、地域社会の教育力の再生・向上等、さまざまな波及効果が期待できます。

(社)栃木県サッカー協会では、平成15年度より総務委員会の中に「キッズプロジェクト」を設置、平成17年度から「キッズ委員会」を新設し、県内のキッズに関する活動を展開しています。『地域の大人達が地域の子供たちにサッカーを教え、その子供達が地域の中学、高校、社会人チームを構成し、やがてまた地域の子供達に還元する』という「還元サイクルの構築（普及）」は本県サッカーの活性化のためにぜひとも必要であり、「JFAキッズプログラム」の展開はその基礎となるものです。

このたびJFAキッズプログラムサポートFAの選定を受けましたので、本県での取り組みを「とちぎキッズプログラム」として、さらに推進していきます。

【18年度の主な活動予定】

- ・キッズリーダー養成講習会開催
- ・各地区巡回指導の実施
- ・親子クリニックの開催
- ・「栃木キッズリーダーバンク」の開設
- ・JFAキッズサッカーフェスティバルの開催
- ・U-6・8・10ハンドブック、ベストサポーター配布

～キッズだより～

6月25日、栃木県グリーンスタジアムで「JFAキッズ（U-6）サッカーフェスティバル」が開催されました。

梅雨時期の開催となり、一番の心配は当日の天気でしたが、幸いにも朝方までの雨も上がり、子供たちも元気に集合、競技開始を待ちわびていました。

夢中でボールを追いかける無邪気でひたむきな姿に、子供たちが楽しく成果を発表する場としてこのフェスティバルを定着させたいと願いつつ運営に当たりました。

同日、「キッズリーダー養成講習会」も開催され、28名が受講しました。

【キッズサッカーフェスティバル】



【キッズリーダー養成講習会】



FAIR PLAY PLEASE  フェアプレイを心がけましょう

審判委員会 指導部活動について



サッカー協会審判委員会
指導部長 金子英二

平成17年度から指導部を担当して、すぐ思ったことは、来る2007年の団塊世代のリタイヤで栃木県の派遣審判員にも、このしわ寄せがやってくることでした。

平成16年時点で派遣審判の40歳以上は7割強いまし

た。若手審判員の増加が少なく活動の発展に懸念がありました。

また、最近では県内においてJFL、社会人関東リーグ、関東ユース大会等が目白押しに開催され数的に派遣依頼にまともに答えられないことや、その割り当てた審判員にハイレベルのコントロール要求に答えられるかが問題となっています。

さらに最近の派遣審判員は、過去に於いては選手をやりながらの兼任であったがJリーグ発足後「テレビの中の審判を見てやりたくなった」という人もおり、そういう人のサッカー競技を通しての人格の陶冶が必要となってきています。

この様な背景を受けながら最初の1年は派遣審判員の資質向上をテーマに栃木県出身の吉田SR（スペシャルレフリーの略）に御協力を戴き、栃木県強化審判員を対象にレフリーセミナー（2回）を開催しました。講師の体験を基に構成されたカリキュラムで説得力のある講義を受け、受講者には大いに参考になりました。

また、強化審判員には近未来のビジョンを描いてもらい自分の夢を計画的に実現して行くプランも実施して、走り始めています。具体的には1～2年はメンタル・体力の強化、3年目に2級受験等。指導側としてはこの夢実現のためのサポートを考えて計画を立て、審判企画委員会で議論し実行に移しています。

平成18年度は平成17年度の結果と反省を受け、さらに発展させた指導計画で実行していくつもりです。具体的には、まずは若い人、やる気のある人、サッカーの好きな人の獲得です。本年度の強化審判員は新規6人増員できました。年齢的には30歳台前後ですがやる気のあるメンバーで楽しみです。

資質の向上では昨年引き続きセミナーを開催、今回は昨年よりレベルを上げたトップレフリーセミナー（1泊2日）を開催しました。これまでは座学中心であったが、ストレッチなどの指導もあり、少しずつメディカル面へ進むことができました。

今後は1回/月で鹿沼の施設を利用させていただき、県出身SR、国際審判員、1級審判員の方々の絶大なる

る協力の基に体力強化方法や、より実践に近い実技指導も受けられる計画を立て、実行に移して行きたいと考えています。

そして、彼らに続く上級審判員を継続的に育て上げたいと考えています。

近い将来、本件にJチームができ、「県内で開催されるJのゲームは栃木県の審判員で」を合言葉に指導活動を推進していきたいと考えています。

全国高校サッカー選手権大会に参加して

上三川高等学校教諭
国際主審 高山啓義

現在私は国際主審として活動する中で国際試合やJリーグなどの試合を担当していますが、今回は第2種高体連委員長という立場から私が参加している全国高校サッカー選手権大会について書いてみたいと思います。

私は平成14年度から17年度まで4年連続でこの大会に参加しています。お正月の「コクリツ」としてご覧になっている方も多と思います。この大会は2級審判員でも参加できますが、関東でも東京・千葉・神奈川・埼玉の開催県の審判員だけしか参加できないのでとても羨ましく感じていました。ですから初めて参加できた時はうれしかったです。

そして幸運なことに平成16年度・17年度と2年連続で決勝戦の主審を担当することができました。宇都宮北高校当時の監督で私の恩師である十河先生（現宇都宮女子校教諭）がやはり2年連続で決勝戦の主審を担当されたことは今でもはっきり覚えていて、いつか自分もとは思っていてもこんなに早く実現できるとは思いませんでした。平成16年度の決勝戦は鹿児島実業V S 市立船橋で史上初のPK戦により決着がつかしました。人気チームの対決とあって観衆も5万人を超えていました。この試合では試合前から比較的リラックスできていました。市立船橋の選手の中には私の中学校の後輩にあたる選手もいて（宇都宮市立泉が丘中学校出身の鈴木選手）、試合前にそのことを話したことも覚えています。ただこの試合は初めての決勝戦ということもあって、無我夢中でやったという記憶しかありません。試合が終わってから充実感というものはいわなく、「ふう～」という深いため息をついたのを覚えています。

そして平成17年度の決勝戦、鹿児島実業V S 野洲の試合です。今年の1月のことですので皆さんのご記憶の中にもまだ残っているかもしれません。ただ、この試合では自分のコンディションとの闘いでした。例年Jリーグが12月初旬に閉幕し、12月中旬からは天皇杯を担当します。ですから高校選手権に参加すると、1年間の激務の中で傷ついたからだをケアする期間が

なく、体力的にかなりしんどい状態なのです。大会参加中に足に違和感を感じて、とにかく今までに経験したことの無いほどに足のケアに細心の注意を払いました。生活面でも宿舎での食事や付き合い方等にも気を配りました。それと自分のモチベーションが決勝戦まで続いた要因として、元旦に行われた天皇杯決勝戦の観戦の為国立競技場を訪れたことです。大会に参加している審判員は、天皇杯の決勝戦を観戦することになっているのですが、国内の大会で天皇杯の決勝戦のみ、試合後に表彰を受けるのです。その審判団を見て、また1週間後絶対にこの国立競技場で高校サッカーの決勝のピッチに立ちたいと強く思いました。その結果、なんとか決勝戦の主審に指名されました。

平成18年1月9日、自分はまた国立競技場のピッチに立つことができました。2年連続全国高校サッカー選手権大会の主審として。前回同様快晴の天気のもと、14時04分にキックオフをしました。天皇杯の決勝や高校選手権の決勝は、審判界にとってもその年の重要なスタートの意味を持ちます。自分のコントロールの基準は、フェアでタフなプレーを目指すようにさせ、スピーディーな試合展開になるように心がけました。結果として、アドバンテージを多く採用することができ、スピーディーな試合展開になったと思います。選手もひたむきにやってくれたおかげだとも思いました。

戦前の予想では、鹿児島実業の堅い守りに野洲のテクニックがどこまで通用するかなどと言われていましたが、試合中に感じたのは野洲のディフェンス面でのがんばりや強さでした。テクニックだけではない力強さも感じましたが、鹿児島実業もやはり強さがありましたので、試合のリズムを崩さないように心がけました。そして延長後半7分、野洲の劇的な逆転ゴールが生まれます。この時に感じたのが、「まずい！」という感情でした。このゴールの前は鹿児島実業のコーナーキックでしたが、自分の中にも周囲にもPK戦が頭によぎった時間帯でした。しかしボールがこぼれ野洲に渡った瞬間に、自分の直感が自分の体にムチを入れフルダッシュの状態になっていました。VTRでチェックしてみても、コーナーキックでプレーを見ている雰囲気と野洲が攻撃に移り走り出す雰囲気とは、まるで力の入り方が違うのがはっきりと分かります。その直感が現実になりそうだとよりはっきりと認識したのが、左サイドから右サイドへのサイドチェンジしたボールの弾道を真後ろから見た時です。「ドンッ」という鋭い音がして無回転で飛んでいき、観衆からもどよめきが起きました。結局その後の流れるようなプレーから得点し、約5分後に試合終了のホイッスルを吹きました。

試合終了後の明と暗のコントラストは誰もが感動し

たことと思います。皆さんは高校生が全力を尽くしきった後、嗚咽とともに号泣する姿を見たことがあるでしょうか？その場にいたら、自分の感情を押し殺してそのままその場を立ち去ることができるでしょうか？もちろん我々審判は感情に流されず任務を遂行し、ゲーム終了後も速やかにピッチから離れることが重要だと思います。しかし皆さんの中にも、もう少しこの試合の中にいたい、少しでも長くこの雰囲気味わいたい、と思った試合があるかもしれません。自分もピッチから離れるまでは気が張っていましたが、控室へ戻る途中、観客席から「審判ありがとう」「よくやった」などの声があちこちから聞こえてきました。コンディション調整の為に張り詰めた生活から解放されたという気持ちも同時に湧き上がり、その時からとめどなく涙が流れてきました。もちろん審判人生の中で初めての経験です。

翌日、学校でも多くの女子生徒が涙したということを知りましたし、推薦入試ではこの試合に感動し上三川高校に入学したいという生徒もいました。

平成18年になりJリーグの試合も10試合ほど担当しましたが、今のところこの決勝戦が一番印象に残っています。常にこのような充実感ある試合ができ、自分の想いが更新されなければいけないのかもしれませんが、Jリーグを担当しているのだから高校生の試合は良くできて当たり前だという声もありました。ただ、私は高校の教員でありサッカー部の監督でもあります。高体連に所属している者ならば国立競技場は夢の舞台です。残念ながら栃木県のチームは久しく国立競技場のピッチに立てていません。ピッチに立ちその試合で感じた何かを伝えたいと思います。幸いにして現在審判を志してくれる高校生が増えてきました。高体連の取り組みとして、ユース審判員も男女合わせて200名を超えるまでになりました。彼らがいつの日か決勝戦のピッチに、審判員として立てるように指導育成していかなければいけないとも思います。今年度も「栃木のサッカーのために」全国高校サッカー選手権大会にチャレンジしたいと思います。



16年度高校サッカー選手権大会 決勝戦
鹿児島実業VS市立船橋

審判インストラクター部より



サッカー協会審判委員会
インストラクター部長
鈴木武明

皆さん、審判インストラクターというのをご存じでしょうか。「審判員ならわかるけど、インストラクターって何？」と言う方もいると思いますのでインストラクター活動

について紹介します。

競技者は監督やコーチさらにはトレーナーやマネージャーに支えられて、日々トレーニングに励み試合に臨んでいます。試合後は監督やコーチを中心に試合内容を分析して反省点を洗い出し、練習に生かします。その結果、個人の能力がアップして戦術が浸透し、チーム力が向上すると思います。

審判員についてもまったく同じことが言えます。「試合に行って、ただ笛を吹けばよい、旗を振ればよい」と言うことはありません。審判員たちも100%満足のいくコントロールを目指してトレーニングをしたり研修会に参加したりしています。しかし、実際には「今日の試合のあの判定はどうだったのか、選手への対応の仕方はあれでよかったのか、あの反則には警告を出した方がいいのでは・・・」等、具体的な疑問や反省が生まれてきます。そこで競技者のコーチ役のようにリアルタイムで審判員たちにアドバイスをしてサポートし、指導・育成を担当しているのが審判インストラクターです。日本協会では昨年までレスリー・モットラム氏がチーフインストラクターを努め、その後、小幡真一郎氏が就任しました。本県の十河正博氏も日本協会でも活躍しています。

栃木県サッカー協会では昨年石川栄壽氏から私が引き継ぎました。栃木県の組織としては佐藤洋氏を副部長に、1級インストラクター1名、2級インストラクター4名、3級インストラクター12名で活動しています。17名の大半は審判委員会の指導部・競技部との兼任であったり、現役の審判員であったりで忙しく活動しています。

インストラクター部の活動方針・内容の概要は以下の通りです。

1. 方針

日本協会・関東協会審判委員会方針及び栃木県協会審判委員会指導部他各部との連携を図りながら、栃木県協会所属「審判員」の資質向上、人格の陶冶を図る。

2. 活動内容

- ①審判員研修会・講習会、更新時講習会
- ②審判員昇級（認定）審査に関する講習会

- ③強化審判員の実技・理論を指導し、より上級にチャレンジできる審判員の育成
- ④各種大会の実技指導と評価（インスペクター活動）
- ⑤インストラクター、審判講習会等要請のあるものへの講師派遣 など

また、私たちがインストラクター活動をするにあたっては、日頃から審判員以上に審判技術に精通するよう研修し、年2回のインストラクター研修会にも全員の参加を申し合わせています。その研修会で、インストラクター自身のレベル合わせや県内審判員の情報交換を行い、指導方法等の意思統一をしています。厳しいことを指摘することもあります。このように決して安易な考えでは指導していません。

TFAゴールドプラン2006（10年後の達成目標）の審判委員会の目標には

『サッカーファミリーの一員として、サッカー・フットサル審判員が6,000人以上になる』というものがあります。単なる数的な増加だけでなく、その審判員の質の向上を担うのが私たちインストラクター部の仕事だと思っています。吉田寿光スペシャルレフリー、高山啓義国際主審、手塚洋国際副審のようにJリーグや世界の場で活躍できる栃木県の審判仲間がたくさん生まれるようにしなくてはなりません。大役ではありますが、インストラクター部員一同団結して栃木県のサッカーが発展・活躍できるようサポートしていきたいと思っています。

社会人連盟の審判として

社会人連盟 審判委員会
委員長 伊藤 章



日頃から、社会人連盟審判委員会の活動に対しまして、ご理解・ご支援を賜り誠に有り難う御座います。

今シーズンに於きましては、栃木県トップチームの栃木SCが、Jリーグ加盟の登竜門の一つ、法人設立が、関係各局皆々様の集結したお力で立ち上げられた事を、サッカー栃木の一員として心よりお喜び申しあげますと共に、更なる実績向上へ期待しております。

現在、ドイツワールドカップ開催で昼夜を問わずその熱狂ぶりは計り知れず状態、サッカーの底知れぬ魅力が、まさに今日爆発中そのものです。我が、全日本チームもブラジル・クロアチア・オーストラリア相手に善戦虚しく一勝することなく予選リーグ敗退の結果でしたが、高温多湿のピッチの中で戦ったジーコ監督以下選手諸君に、心から「お疲れさま」を贈りたい。

我が栃木県に於いても、栃木県にワールドカップが開催されたにも匹敵する大会イベントが過去に御座いました。そうです、「輝いて見せてください 青春の汗 in栃木」全国高等学校総合体育大会です。私は、大会役員として・一審判員として携わる事が出来ました、その思い出の中に、日韓ワールドカップに続き二度目の参加となるSRレフリー、上川徹氏も審判員として、「ホテルニューイタヤ」を宿舎に宇都宮高等学校校庭に於いて体力テストを行い、二荒山神社へ、モーニングトレーニングとワールドカップ出場を御祈願し審判協力なされたのは、もう13年前のことです。時、同じくして8月2日・13:20キックオフ・県総合運動公園サッカー場Aコートに於いて、(宮城県代表)利府高校 対 (山梨県代表) 韮崎高校のゲームが、現在栃木県サッカー協会常務理事の奥澤浩氏によってキックオフされました。因みに、韮崎高校2年MF背番号7は、現在の日本代表背番号7の中田英寿選手です。

私には、審判活動や、大会役員、連盟の一員へ、参加させて頂いた御陰で数々の経験や思い出が出来、サッカーを観戦するもう一つの楽しみが与えられた環境に感謝しております。

今後も、審判員としては、SRレフリー吉田主審へ続くレフリーの発掘を、日立栃木から栃木SCへそしてJリーグ選手となった若林選手のように第二、第三のプロ選手が誕生出来ますよう希望しております。これらの希望を心に置き今後もサッカー栃木、社会人連盟の発展へ寄与したく活動して行きたい所存です。皆様の更なるご指導・ご支援を宜しくお願い致します。

2級審判員に昇級して

審判委員会 原 崇



私が今日2級審判員として活動するようになったきっかけは、高校1年の冬に4級審判員取得講習会を受講したことから始まります。そのときの講師は、現在1級審判員としてJリーグなどで活動している相楽亨さんでした。

相楽さんは「プロの選手になることが厳しいと思っている10代の方は、審判のプロでしたら可能性は十分にあるので、ぜひ志してください。」とおっしゃっていました。私はそれを「今からプロの審判員を目指せば、(必ず)なれる。」というように解釈しました。それから約1年後に3級審判員の資格を取得し、さらに1年後には栃木県の強化審判員として活動するようになりました。

本格的に審判を務めるようになって、円滑に試合を進行するためには、4人の審判が協力し互いに助け合うことが不可欠であるということを知りました。私自

身、試合中にミスを犯しそうになったときが何度もあります。その度に、他の審判員のサポートによってミスを未然に防ぐことができました。また、判定に自信が持てず動揺している状況では、サポートされることによって落ち着きを取り戻すことができます。このような経験から、協力や助け合いの重要性を知りました。これまでは、試合が始まると無我夢中で審判を務めることが多々あったので、サポートされてばかりでしたが、今後は落ち着いて試合に臨み、必要なサポートができるように務めたいと思っています。

私が主審を務めるにあたって常に意識していることは、「説得力のあるレフリングをするために、争点の近くまで走って判定すること」です。争点から遠くでは、正しい判定であっても選手は納得できない場合もあるかと思います。しかしながら、争点に近くても見る角度が悪かったのならば、正しい判定はできません。そこで、争点の近くで尚且つ良い角度という最良のポジションを常にとることが今の私にとって一番の課題です。また、選手と審判では目的は違いますが、ある考えを実践し、その結果を分析して次の試合に生かすという点では同様な気がしますし、とてもやりがいを感じています。

強化審判員として活動するようになってからは、先輩審判員から常にアドバイスをいただいています。アドバイスの中には、判定やポジショニング、ルールの適応などの技術的なアドバイスのみならず、審判員としての心構えや試合に臨む気持ち、試合に向けてのトレーニング方法なども含まれます。これらのアドバイスは私の審判に対する興味をますますそそり、同時に、「アドバイスを受ける＝伸びる可能性がある」と私は考えています。私にとって審判を務めることは、サッカーに携わるだけでなく、自分のために頑張ることです。将来的には1級審判員、さらには国際主審になればと思っていますので、審判員としてこれからどこまで成長できるか、私自身の夢のために最大限の努力をしていきたいです。

最後になりましたが、審判指導部の皆様、派遣審判員として一緒に活動している皆様にご場をお借りしてお礼申し上げます。これからも、厳しく的確なご指導をよろしくお願いいたします。

平成19年度の審判登録更新が始まります

8月より審判登録更新講習会の受講申し込み受付が始まります。

講習会情報と申込手続きは(財)日本サッカー協会のホームページWeb登録サイト(通称“kick off”)にログインしてください。

<http://www.jfa.or.jp/>

◆携帯サイト

<https://www.jfa.jp/referee/mobile/>

平成18年度 (社)栃木県サッカー協会賛助会員御芳名 (敬称略)

中條康雄
 円印刷(株)
 奥澤直人
 加藤一男
 星野善明
 宇都宮北高等学校サッカー部OB会
 鹿沼フットボールクラブOB会
 FCクイーンズ後援会
 君島建築(有)
 FCスポーツ宇都宮
 添野一雄
 白鷗大学サッカー部
 楠瀬直木
 沢邊 彰
 竹石秀夫
 小池一規
 今市ジュニオール
 水戸隆行
 栃木信用金庫
 佐田繁理
 花王株式会社
 揚茜クラブ
 矢崎部品(株)栃木工場サッカークラブ
 手塚貴子
 阿久津好夫
 落東アスリート
 (有)トータルヘルスクリエイト
 真岡中学校サッカー部保護者協力会
 大島秀樹
 秋澤留美
 早瀬一男
 尾澤洋一
 益子芳星高等学校サッカー部保護者会
 三島FC
 河内SCジュベニール
 安達賢二
 栃木SCジュニアユース
 栃木SCジュニア
 須長正彦

宇都宮清陵高等学校サッカー部保護者会
 御厨FC
 フカヤスポーツ
 古澤和行
 YFC21後援会
 共英FC保護者会
 宇都宮商業高等学校サッカー部後援会
 田口八重子
 南河内サッカースポーツ少年団
 斉藤良次
 宇都宮東高等学校サッカー部親の会
 みしば はるき
 岩舟JFC保護者会
 矢板中学校サッカー部保護者会
 片原正郎
 大沢JFC
 (株)タカサゴ
 真岡SCアーギア父母の会
 三森文徳
 岡田善朗
 滝の原サッカーOB会
 佐野日大高校サッカー部保護者会
 真岡高等学校
 東那須野サッカースポーツ少年団
 FC西那須野21槻沢
 間々田FCがむしゃら後援会
 O1FC青葉親の会
 (有)スポーツショップヤマトヤ
 FCあわのレジェンド
 大橋政夫
 日立栃木ウーヴァスポーツクラブ後援会
 真岡パープルレディース
 小野寺勝己
 芳賀中学校保護者会
 (有)あおきスポーツ

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

< 編集後記 >

今月(8月)は国体の関東ブロック大会が本県で開催される。私は3年前から成年男子の試合を見続けていまだに敗戦の瞬間に立ち会っていない。今年も優勝候補の筆頭であるが、なぜか地元開催は相性が良くない。大橋監督の下、十分な準備をしてきているので関東ブロックを突破して、前人未到の4連覇に挑戦してもらいたいと思う。また、少年や女子も可能性は十分にあるので、ぜひとも本大会出場を果たしてほしい。(川端)